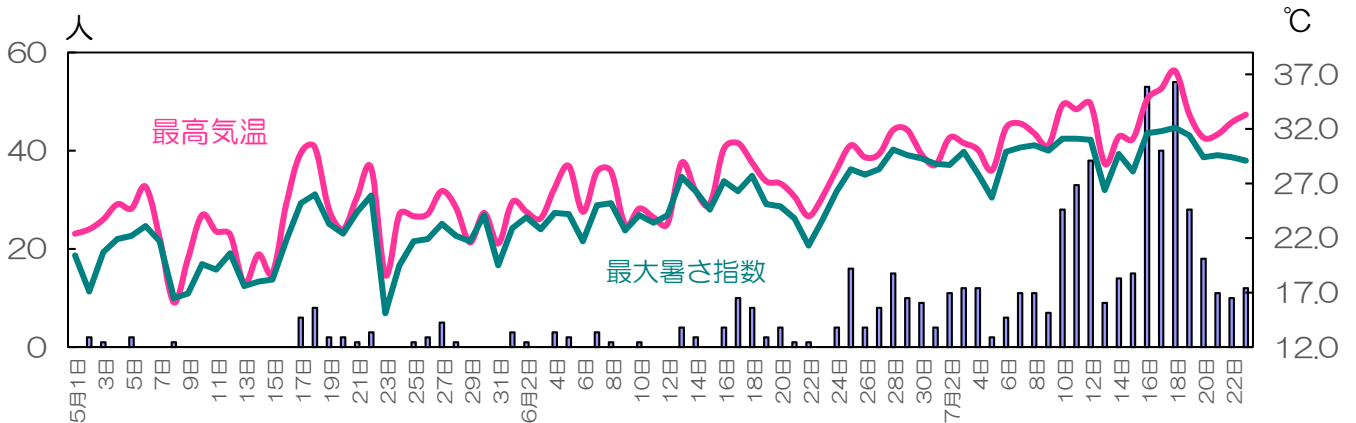


熱中症情報

<搬送数>

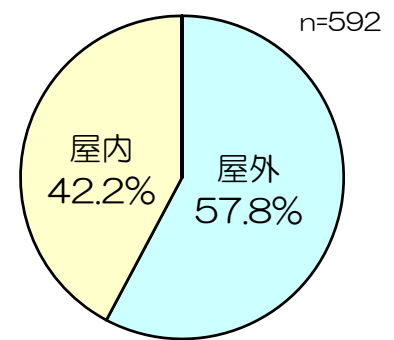
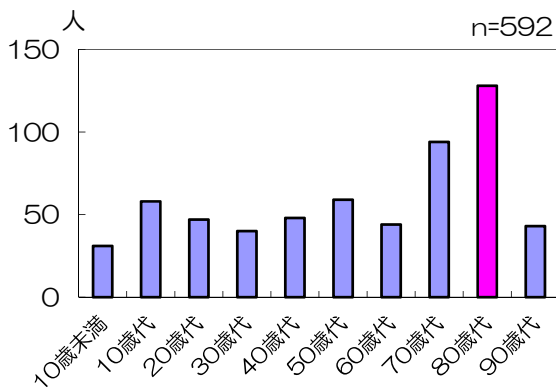
令和5年5月1日～7月23日までの搬送数（消防局データを使用）は、計592人（5月37人、6月116人、7月439人）でした。7月10日以降、最高気温が30℃（真夏日）・暑さ指数31℃（危険）を超えると、搬送数も25人以上/日と多くなっています（7月18日は、最高気温37.3℃・暑さ指数32.1℃で、54人でした）。

熱中症は、梅雨入り前の5月頃から発生し、暑い日が続いてくると多発する傾向があります。気温が高いなどの環境下で、体温調節の機能がうまく働かず、体内に熱がこもってしまうことで起こります。梅雨も明け、しばらくは厳しい暑さが続きます。こまめに水分を取り、室温を適切に調節し、暑さから身を守りましょう。



暑さ指数とは？人間の熱バランスに影響の大きい①温度 ②日射・輻射(ふくしゃ)など周辺の熱環境 ③気温の3つを取り入れた温度の指標 詳細は「環境省熱中症予防情報サイト [暑さ指数\(WBGT\)とは？](#)」をご覧ください。

<年齢別> 80歳代が128人（21.6%）で最も多く、**<発生場所>** 屋外57.8%、屋内42.2%で、次が70歳代で94人（15.9%）でした。屋外での発生が多くなっています。



<重症度> 軽症60.8%、中等症36.5%、重症2.4%、重篤0.3%でした。高齢者（65歳以上）の中等症以上の割合が55.1%と、高くなっており、高齢者に重症化する傾向がみられます。

